

乙部町における過去の災害

自然の猛威は 人の想像をはるかに超えるときがあります。
過去に乙部町 で発生した自然の猛威を学び、新たな災害に備えましょう！！



地震・津波災害

平成5年の北海道南西沖地震

北海道南西沖地震は、平成5年7月12日、北海道南西沖を震源として震源の深さは34km、マグニチュード7.8、推定震度6という、日本海側で発生した地震としては観測史上最大のものとなりました。

檜山管内は地殻変動による地割れ、陥没、液状化現象などにより、農業、水産、道路、河川等で大きな被害を受けました。奥尻町は地震発生後3分から5分という速さで、10m以上の巨大津波に襲われ、津波、火災で数百棟の家と約200名の人命が失われました。乙部町においても家屋被害は、全壊、半壊、一部破損で84戸の被害を受け、公共施設、産業被害を含めて、被害総額は約30億円に達しました。

※参考文献 乙部町史より



国保病院の被害状況



乙部小学校へ避難した住民の様子

渡島大島の噴火による大津波

寛保元年(1741)年7月15日に渡島大島が噴火し、さらに3日後に発生した噴火による山体崩壊が原因とされている大津波により、松前町から熊石地区までの約130kmに渡る長い海岸に沿った集落が大きな被害を受けました。

資料では、「松前から熊石間で死者1,467人、家屋倉庫など791棟が壊され、船は1,521隻も流出」とあり、乙部町においても「おとべ今昔余話」により受け継がれています。

●豊浜・稲倉石の由来

豊浜川上流約800m付近に、重さ10トンほどの小岩のような石が、苔むして長い時を刻んでどっしりと据えておりますが、地元ではこの石を稲倉石と呼んでいます。

もともとこの稲倉石は、大潤川の合流地点にあったもので、漁民の守り神としてまつられていましたが、渡島大島噴火から数年たったある日のこと、豊浜川上流の谷間で、河口付近にあった石とそっくりな石を見つけ、びっくりしました。

住民たちは、稲倉石を上流まで運んだ津波のすごさに驚き、あらためて大さわぎになったそうです。

平成2年4月、豊浜自治会の有志と葉梨孝幸氏により、この稲倉石が現存していることを確認し、「災害から地域を守る守り神として末永く保存したいもの」と話し合ったそうです。

この「稲倉石」のある場所は、GPS測量で標高を計測し、誤差があっても50m以上の地点にありました。

その他にも、「現在の法然寺の軒先まで民家のガレキや舟の残骸が打ち寄せられた。」という伝承があります。

※参考文献(『おとべ今昔余話』著者 葉梨孝幸氏 平成28年4月15日発刊より)

台風・高潮災害

洞爺丸台風(昭和29年の台風15号)

昭和29年9月26日に北海道を襲った台風15号は、青函連絡船洞爺丸を座礁転覆させ乗員乗客計1,175人の命を奪うなど、各地に甚大な被害を与えました。

江差では、最大風速36.1m/s、最大瞬間で45m/sを記録し、乙部町にも台風は猛威をふるい、大きな被害を受けました。

※参考文献 乙部町史より

人的被害：負傷者 6名

家屋被害：全壊 54棟

半壊・屋根被害 1,128棟

公共施設被害：乙部小学校の半壊、体育館大破など

産業被害：水稻被害 217ha

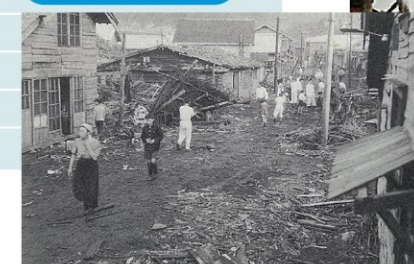
畑作被害 356ha

水産被害：動力船全壊 4隻

含む計 36隻

漁港など

洞爺丸台風



栄浜市街地の被害状況

昭和62年の台風くずれによる災害

昭和62年9月1日の台風の温帯低気圧化では、最大風速23.7m/sを記録し、高波がうち寄せ、家屋の全壊・流失や浸水被害が発生し、被害総額は約10億円に達しました。

特に、豊浜地区では、みさき保育園付近で大きな被害が発生しました。

※参考文献 乙部町史より

昭和62年の台風12号



温帯低気圧による被害状況(豊浜)

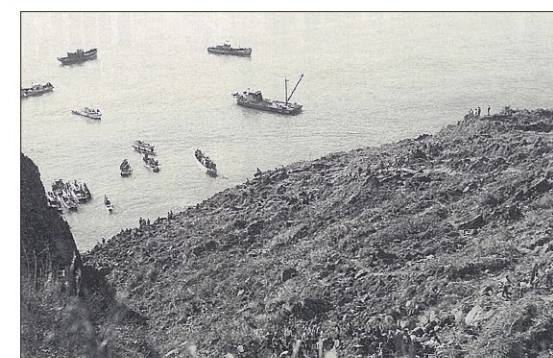
土砂災害

豊浜トンネル山津波事故

昭和37年10月17日、大成村発・江差行の函館バスが、豊浜と相沼間の2級国道で約600mにわたる山津波に飲まれ、4~5m下の海岸線に押し流され、バスはもちろん道路も完全に土砂の中に埋没しました。

死者11人、行方不明者3人、重軽傷者14人を出す大惨事の災害が発生しました。

※参考文献 乙部町史より



地滑りの現場捜索

大雨災害

平成10年5月2日の大雨

日本海で発達した低気圧により、潮見観測点では、1日総雨量229mmと観測史上最多の降雨で、突符川の氾濫により、家屋では床上・床下浸水やサクラマス種苗センター冠水など、特に栄浜地区で大きな被害が発生し、12億5千万円を超える災害となりました。

※参考文献 乙部町史より



町道突符川沿い道路の状況